

タクシーのご用命は0120-148-512登山ハイヤーへ

箱根観光情報新聞
2026春号第一版
令和8年3月17日発行
企画制作
箱根観光情報研究会
協力
箱根モビリティサービス(株)
制作責任者:美馬 哲
発行部数:700部

無料

ご自由にお持ちください

箱根観光情報研究会

箱根観光情報新聞

写真展「箱根の桜を介して」



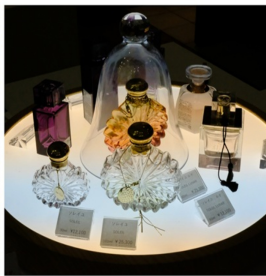
箱根観光情報新聞は本年三月、宮ノ下のNaraya Cafeで写真展を開催。今号ではその写真展の桜の展示作品を中心に箱根の桜の見所を紹介したい。最初の写真は宮城野の国道一三八号線沿いのさくら橋から撮影した昼と夜の組写真(写真展では別々の作品として展示)。ソメイヨシノと枝垂桜が向かい合うように並んでいるポイント。例年はソメイヨシノが先に枝垂れ桜が遅れて開花するが、二〇二二年、二〇二三年は四月上旬、ほとんど同時に開花。本紙は通常は夜の取材や撮影は行わないが、二〇二二年は「ソメイヨシノと枝垂れ桜の夜桜の写真は撮れないかも。」とカメラ機材を抱えて自宅を出発。ライントアップされたソメイヨシノと枝垂桜の撮影に成功。そして翌二〇二三年四月上旬は真つ青な空とソメイヨシノの白、枝垂れ桜のピンクをカメラに収めた。その年の開花状況によるが、タイミングが合えばソメイヨシノと枝垂れ桜が楽しめる。今年はどうだろうか。



二枚目の写真はさくら橋からさらに奥に進んだ早川沿い(早川堤)のソメイヨシノの桜並木だ。六〇メートルに渡ってソメイヨシノの並木が続く。箱根でこれだけの規模で桜が植えられている場所は他にない。最後の写真は早川の流れをバックにソメイヨシノをアップにした作品。この写真も早川堤の桜だ。なお、宮城野周辺には昨年一〇月に箱根食堂が開店。お花見の際には是非立ち寄って欲しい御食事処だ。



箱根仙石原に本紙編集長にとつて思い出深い美術館がある。ラリック美術館だ。本紙創刊号にあたって、名刺一枚とメモだけを持って最初に取材をさせていただいた。今回、その時の広報のご担当者と六年ぶりに再会、その場で現在のご担当者をご紹介いただき、二度目の取材が実現、貴重なお話を伺うことができた。さて、ルネ・ラリックは一九世紀後半から二〇世紀半ばまで宝飾・ガラス工芸家として活躍した。当初は曲線と装飾美のアー・ヌーヴォー、後半は直線と機能美が特徴のアル・デコの様式を取り入れて成功した。二つの様式で成功した作家は少ないと言われている。子供の頃から絵の才能が認められ、一〇代半ばで美術学校、工房で技術を学び、二二歳の時に独立してカルティエなどの高級宝飾店にデザインを提供していたらしい。



箱根ラリック美術館、豪華なガラスの作家の才能を堪能できる美術館



写真提供:ラリック美術館

左右非対称のジャポニズムの影響を受けたことや自由な造形が可能なガラスを取り入れたこと、さらに右の品質よりも芸術性を重視したデザインが特徴だった。一九〇〇年のパリ万博に宝飾品を出品してグランプリを受賞して名声が確立。その後、香水商フランソワ・コティの依頼で香水瓶のデザインを手がけた。当時、香水は上流階級のもので、量り売りが基本。大量に買い付けた香水を小さな容器に入れ替えて使う。





写真提供:ラリック美術館

ていた。ラリックはおしゃれな香水瓶をデザイン。

この香水瓶に入れた香水が店頭に並んだことにより、香水が一般の庶民にも手が届くようになったと云う。

ラリック美術館ではルネ・ラリックの芸術家としての変遷を感じることが出来るだろう。

館内にはレストランやショップの他に一九二八年にラリックが内装を手掛けたオリエント急行の車両が設置されており、室内装飾を楽しみながらゆったりとしたタイム(四〇分)を過ごすことが出来る。

ご利用の場合はレストランフロントで予約が必要だ。



写真提供:ラリック美術館

なお、レストランやショップは美術館に入館されなくてもご利用できるので、ランチとショッピングで立ち寄るのも楽しそう。

名店訪問 傳兵衛蕎麦



箱根関所京口御門前にはお食事処やお土産屋が軒を並べているが、その中で一際目立つ店頭がある。店頭幕には「箱根製麺所」と書かれている。

そしてその隣には江戸の風情を感じさせるお蕎麦屋さんがある。傳兵衛蕎麦(でんべいそば)だ。

ご主人にお話を伺ったところ、製麺所は一九五〇年頃に創業、最盛期には三〇件ほどのお店に麵を卸していたらしい。しかし、お蕎麦屋さんの廃業や自家製麵のお店が増えたことで売上



が低下。二〇〇〇年頃に先代のお父様がお蕎麦屋を開き、隣の製麺所で作った麵(蕎麦、饅頭)を使って、田舎風の細くてつるつるした江戸前風のお蕎麦(温かい蕎麦は甘め、冷たい蕎麦は濃いめ)の提供を始めた。

現在のご主人がお店を継いだのは二〇一〇年頃。以来、先代が目指した蕎麦の味を守ってきた。

江戸の風情を感じさせるお店の外観や内装は現在のご主人のこだわりだ。箱根関所の色(柿渋塗の

黒と同じ黒で統一。看板や暖簾の文字にはレトロ調のフォントを採用。店名の傳兵衛は六代前のご先祖様のお名前。

ご主人の家系は江戸時代には現在のお店の隣の場所に居を構えており、役場で傳兵衛氏の戸籍も確認できるそう。お店を継いだ際に歴史を感じさせる店名にしたと考えると、ご先祖のお名前を店名にしたのだ。

江戸時代の旅人の気分に浸りながら江戸前の蕎麦の味を堪能できるお店。なお、編集長はこれまでに山菜蕎麦と冷たい月見とろろ蕎麦を堪能。一つ一つ試してのど越しも良く大変美味い。お薦めのお店。とコメントしている。



旧道沿いの畑宿入口交差点のそばに山小屋佐藤と言う隠れ家的なカフェがある。サラリーマンだったオーナーが早期退職して二〇〇八年に開店したカフェだ。広い敷地には鳥の餌台が



山小屋佐藤



設置されており、店内から野鳥を観察できるよう双眼鏡も用意されている。

オーナーは森林インストラクターをされているため、箱根の歴史や地理、自然にめちゃくちゃ詳しい。

オーナーの楽しいお話を伺いながら丁寧に入れられた珈琲をいただくことができるお店。本紙編集長も毎月立ち寄ってはオーナーとの会話を楽しんでいる。

お薦めはさとうのケーキセット。なお、不定休なの

で事前に電話確認しておくことをお薦めする。



お願い

本紙ではお客様にできる限り正確に情報をお伝えするよう努力しておりますが、紙面の都合上、お店の場所や営業日、営業時間などの詳細をお伝え出来ない場合がございます。お手数をおかけしますが、訪問される前にお店や施設のホームページなどで営業日、営業時間などをご確認ください。よろしくお願いいたします。

なお、左記QRコードで過去の記事や画像、編集長の思い出などを紹介した本紙ホームページにアクセスできるのでお試しください。



箱根観光情報新聞QRコード



箱根に観光に来たけれど「どこを見たらいいかわからない。」「効率的に観光したいけれど・・・。」とお悩みのあなた箱根観光は登山ハイヤーがお薦めです。

今すぐ 0120-148-512(携帯OK)へ